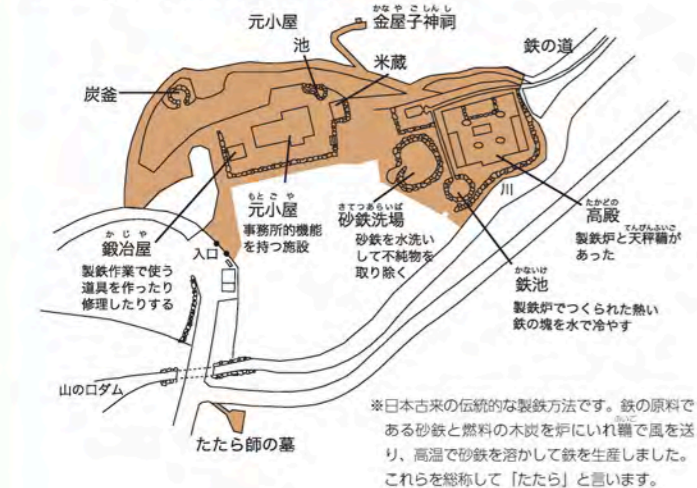


福栄地域にまつわるストーリー

おおいたやま 大板山たたら製鉄遺跡

案内ガイドは道の駅ハピネスふくえにお問合せください

江戸時代の製鉄所：たたら製鉄の跡で、主要な建物跡などの遺構が一体的に残されています。萩藩最初の洋式木造帆船「内辰丸」の船釘や、いかりなどに使用する鉄素材もこの場所で作られました。幕末期における西洋技術の導入が、たたら製鉄のような在来の匠の技術に支えられ、行われたことがうかがえます。原料の砂鉄は島根県から北前船によって奈古港に荷揚げされ、荷駄（馬）で運ばれていました。



あかし たたら師の生きた証

江戸時代、たたら師は特別な技術者集団であり、その技術の流出をさけるため、地元民との交流は限られていたといわれています。遺跡内には、職人とその家族の墓があり、碑文から石州（島根県）や芸州（広島県）の人が動きに来ていたことがわかります。長久寺の過去帳（非公開）には、たたら師のものと思われる記録があり、西見山八幡宮には、石見銀山のたたら師が寄進したという石段と標柱も残っています。



世界遺産候補「明治日本の産業革命遺産」～萩の産業遺産群～

萩反射炉
西洋式の鉄製大砲製造を目指した萩藩が、安政3年（1856）に建設した反射炉の遺跡

恵美須ヶ鼻造船所跡
幕府の要請や木戸孝允の意見により、萩藩が設けた造船所の遺跡

日本は、幕末における西洋技術の導入以来、西洋以外の地域で初めて、かつ極めて短期間のうちに飛躍的な発展を遂げ、明治時代後期には産業国家としての地位を確立しました。萩の産業遺産群とは産業技術導入の最初期の遺産群で、「萩反射炉」「恵美須ヶ鼻造船所跡」「大板山たたら製鉄遺跡」「萩城下町」「松下村塾」の5つの資産で構成されています。幕末に西洋の技術を取り入れ、産業化を目指した地域社会の全体像とその特質をあらわしています。

萩城下町
幕末の産業化を目指した萩藩の、当時の地域社会を今に伝えている

松下村塾
吉田松陰が主宰した私塾で、幕末当時の地域社会における人材育成の場を示している

幕末・明治維新を陰で支えた福栄

天保開兵之地
天保14年（1843）、萩藩主毛利敬親は村田清風の進言によって、羽賀台で大操練（軍事演習）を行いました。藩主の本陣が置かれた台上の小高い丘には、大正6年（1917）に建てられた「天保開兵之地」という石碑があり、開兵の際に敬親が鞍をかけたという鞍掛松（2代目）も見る事ができます。昭和41年（1966）には地元有志により桜が植えられ、現在では桜の名所としても親しまれています。

金子重之助（重輔）
天保2年（1831）、紫福村生まれといわれています。安政元年（1854）、吉田松陰とともに伊豆下田港に赴いて、渡米のため米艦に乗り込もうとするも拒否され、やむなく計画を中止、自首しました。その後、萩の岩倉獄に送られましたが、獄中で病死しました。福栄には昭和7年（1932）、仏光寺境内に、地元有志により石碑が建てられました。※諸説あり。写真は萩市椿東の吉田松陰誕生地の銅像。

森田家住宅
森田家は津和野の領主吉見家の浪人であった森田対馬が旧黒川村を開拓し、その功績によって代々庄屋をつとめ、早くから苗字帯刀を許された家柄。萩藩主の鷹狩の際は、休憩所や本陣にあてられたといわれています。主屋の建築は江戸中期で、吉田松陰の養母の久満の実家でもあり、国の重要文化財に指定されています。※外観見学可

福栄地域は、萩の城下町の後背地として米や野菜などの農産物を供給し、幕末においては軍事演習の場にもなっていました。

福栄の自然や文化と特産品

ひらわらびたい 平蔵台の雲海
福栄夢～らる雲海（平わらび台活性化交流施設）からの景色は撮影スポットの1つです。秋・冬の冷え込んだ朝には、台を覆い尽くす雲海の美しい景色が広がります。



福栄の田園風景
福栄地域では各所に山間の田園風景が広がっています。厳しい土地条件に工夫を重ね、基盤整備を進めてきたことで、現在も豊かな農村の田園風景を見ることができます。

おおいたやま 大板山たたら太鼓
大板山たたら太鼓は、たたら製鉄遺跡をテーマとして、製鉄炉の炎の力強さをイメージした創作和太鼓です。

福栄の特産品

福栄の4つの台地などの様々な素材から特産品が生み出されています。

- 羽賀台の関兵餅【通年】
- 平原台のぶどう【8～10月】
- 平蔵台の米・野菜
- 長沢台の長萩和牛【通年】

福栄 季節暦

春	夏	秋	冬
●節分祭（2月）	●田植え（7月）	●稲刈り（10月）	●平蔵台の雲海（12月）
●わらび摘みフェスタ（4月）	●商工祭（7月）	●ふるさと祭り（11月）	●シクラメンフェア（12月）
	●道の駅祭り（8月）	●森林だくさん祭り（11月）	●歳末市（12月）
	●盆踊り大会（8月）		

施設のご案内

道の駅「ハピネスふくえ」
福栄地域で育った新鮮な農作物や花きなどの特産品を販売。また地元の食材を使った料理が自慢の食堂（やまぐち食彩店）もあります。
住所：山口県萩市福井下4014-2
TEL：0838-52-0356
時間：8:30～18:00 食堂11:00～16:00
定休日：年末・年始
※食堂のみ月曜日（休日の場合は翌日）

萩まちあるきマップ



福栄は、萩地域の東側に位置し、阿武台地の一角を占め、四方を緑の山に囲まれた農村地帯です。古くから人々が住み、農耕を中心とした営みが行われる中で、各地に礼所を置いてお遍路をする紫福八十八ヶ所や迫害を受けたキリシタン信者たちを受け入れたという隠れキリシタン伝説、修験の場として使われた山々、木喰五行上人が滞在して残した仏像、また多く存在する社寺では昔ながらの祭礼などが脈々と受け継がれており、大切にされてきた山里のおたからが数多く残されています。山間ののどかな田園風景が広がる信仰の里・福栄をのんびり巡ってみませんか。



このマップは萩まちじゅう博物館の各エリアのおたからを紹介するマップとしてシリーズで発行しています。詳しくは萩データベースでチェック!!
machihaku.city.hagi.lg.jp/db/

